

# ひらくびづかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '84 10月号

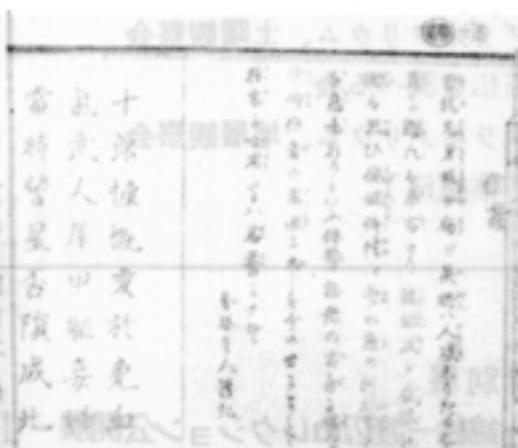


'84 10月号

秋期特別展

屏風と錦絵

渡辺コレクション



10月11日～28日

平塚市博物館

特別展示室

「書画五拾三駅」の内「平塚 虎の恋情」と  
「開化廿四好」の内「牛」

くわしくは、次ページをごらん下さい。

# ＊＊10月の行事＊＊

1	月	(休館日)	17	水	
2	火		18	木	
3	水		19	金	星を見る会
4	木		20	土	プラネタリウム、古文書講読会
5	金		21	日	プラネタリウム
6	土	プラネタリウム、古文書講読会	22	月	(休館日)
7	日	プラネタリウム	23	火	
8	月	(休館日)	24	水	
9	火		25	木	
10	水	(休館日)(体育の日)	26	金	
11	木	秋期特別展 「屏風と錦絵—渡辺コレクション展—」 デッサン教室 (~28日)	27	土	プラネタリウム、土曜観察会 石仏を調べる会
12	金	デッサン教室	28	日	プラネタリウム、地層観察会 体験学習「紙をすこう! 緑の国勢調査(まとめ)
13	土	プラネタリウム、土曜観察会 石仏を調べる会	29	月	(休館日)
14	日	プラネタリウム、地層観察会	30	火	緑の国勢調査(まとめ)
15	月	(休館日)	31	水	(月末休館日)
16	火				

## ●秋期特別展

「屏風と錦絵—渡辺コレクション公開展—」

会期 10月11日~28日

渡辺コレクションは、その数453点(仮目録点数)、屏風、錦絵、書跡、日本画等を、コレクションの内容としています。これらのコレクションは渡辺廉太郎氏の御祖父、故渡辺廉吉氏の旧蔵する品々で、その大半は、生前氏が集められたものでした。

コレクションの内、特に御寄贈いただいた屏風「天の橋立図」については、風俗および名勝屏風として優れた作品と考えられます。また、その数およそ200点にのぼる錦絵は「書画五拾三駅」(揃)、「開化廿四好」(揃)など、明治期を代表するものでした。

今回公開できる旧蔵品は、このコレクションのごく一部にすぎませんが、ぜひ、この機会に、渡辺コレクションを御堪能下さいますよう御案内いたします。



## プラネタリウム



今月のテーマは「アルマゲスト」



投 影 日	券発売開始時刻	回	投影開始時刻
土 曜 日	朝9時より 第1回、第2回の 券を同時発売する	第1回	14:00
		第2回	15:30
日 曜 日	朝9時より 第1回、第2回の 券を同時発売する	第1回	11:00
		第2回	14:00
火曜日		学 校 専 用	
水曜・木曜日		学 校・團 体 専 用	

# ★☆行事案内☆★

## ●体験学習「紙をすこう」

日時 10月28日(日)9時~15時

場所 博物館科学教室

材料費 500円

申し込み 10月15日までに、往復はがきで  
博物館まで。(多数の場合は抽選により2  
0名までとします。)



## ●体験学習「巣箱を作ろう」

日時 11月25日(日)

場所 博物館科学教室および高麗山

申し込み 11月18日までに、往復はがきで  
博物館へ。多数の場合は抽選により20名  
までとします。

午前中、巣箱を作成し、午後、それを高麗山  
のスギ林にかけに行きます。昨年までにかけた  
巣箱のそじも行います。

## ●寄贈品コーナー「サマーセミナー展」

サマーセミナーは、泊まりがけで自然観察や星  
の観察をする行事です。今年は、8月21日~2  
3日の三日間、40名の小中学生が参加して津久  
井青年の家で行ないました。その時の観察や生活  
の記録を展示しています。

また、この展示は、9月18日~26日の間9  
大学から受け入れた13名の博物館実習生の製作  
によるものです。

## ●星を見る会

秋の夜空をいろいろな星座と、その中にいる星雲  
星団などを、博物館の望遠鏡で観察します。

10月19日(金) 「秋の星座」

11月16日(金) 「秋の星雲・星団」

時間は両日とも18~20時,

参加自由。当日博物館科学教室において下さい。

## ●自然観察会

### 「酒匂川の川原をたずねて」

秋の川原をたずね、姿を見せ始めたカモやカモ  
メなどの水鳥、川原の石を観察します。

日時 11月11日(日) (雨天中止)

場所 小田原市、酒匂川(飯良付近)

申し込み 10月30日までに、往復はがきで  
博物館へ。多数の場合は抽選により30名  
までとします。

## ●土曜観察会「自然の新聞を作ろう」

11月10日(土)相模川のカモ(四之宮)

11月17日(土)秋の雑木林(大磯)

12月 8日(土)新聞作り

時間はいずれも14時~17時

申し込み 参加希望者には日程表をお送りしま  
す。60円切手を同封してお申し込み下さい。



博物館実習

# 平塚の年中行事

## 10 田の神節供

平塚周辺では10月または11月にお節供とか田の神節供といつて餅をつく日があります。

具体的に紹介しますと、市内城島地区では、10月9日を節供、または田の神節供といい、家ごとに餅を搗いて祝っています。中には餅の代りにオコワをふかす家もあります。そして、この日には餅（赤飯）をカエルが背負ってどこかへ帰って行く様子を大根が背伸びをして見るので、この時期になると大根が急に大きくなるといわれています。

豊田地区では、11月9日が田の神節供といわれる日で、昔は餅を搗いたり、あるいは赤飯をふかしたりし、近所同士贈りあって食べました。この日には、城島地区と同じように、節供の餅や赤飯をカエルが背負って地中にもぐり、その様子を畠の大根が伸びあがって見ようとするので、この時期には大根がぐんぐん大きくなるのだといわれています。

城島や豊田に隣接する岡崎地区では、10月10日または11月10日を田の神節供といいます。この時には餅についてボタ餅をつくって食べるのですが、やはり、この日にはカエルがボタ餅を背負って土の中にもぐり、その様子を大根が首を長くして見ようとするので、この時期には大根がよく伸びるのだという話が伝わっています。岡崎地区では、10月または11月の10日ではなく、11月3、4日をお節供といって、餅を2ウス搗き、2ウス目のうちから12個の丸餅をつくり、十二支に供え、3日は汁粉、4日は菜葉を入れた雑煮を食べるという家もあります。

市内の例をもう少し紹介しますと、金田地区では終戦後頃までは、10月9、10日を秋の節供といい、ムラ中で仕事を休み、各家では必ず餅について神棚に供え、家族一同で食べたといいます。

また、市西端の吉沢地区では、10月9日を田の神節供、または九日節供といい、この日には大根が伸びあがるといわれています。

平塚市内では、おおよそ以上のように行われています。全体をまとめてみると、各地区ともほぼ同じ内容で、田の神節供と呼ばれることが多く、10月または11月の9、10日に行われ、餅をつく。そして、この日にはカエルが餅を背負って地へもぐり、大根がその様子を見ようとして首を伸ばすという伝承が付随しているといえます。

田の神節供という行事は、神奈川県内では平塚の他、伊勢原市、厚木市、座間市など相模川の下流域に分布し、他の地域ではこうした名の行事はみられません。相模川下流域は、県内では広く水田のひろがる稻作地帯で、この行事は田の神という名称からもわかるように、稻作に関する祭りで収穫祭であると考えられます。

しかし、田の神節供といわれる行事が、古くから1つの行事であったかどうかについては疑問が残ります。カエルが餅またはボタ餅を背負い地にもぐり、それを見ようとして大根が首を伸ばすというのは、大変ユーモラスな伝承ですが、こうした伝承は神奈川県の東部、おおよそ相模川より東の地域では11月（旧暦10月）の亥（い）の日に行われる亥の子という行事に付随していわれています。亥の子は、全国的にみると近畿地方以西の西日本で盛んな行事で、関東地方の南部（神奈川、千葉、東京と埼玉県南部）まで行われ、亥の子の日には大根畠へ入ってはいけないとか、大根が首を伸ばすという所が多くあります。亥の子という行事は平塚でも行われ、亥の子のボタモチといってボタ餅をつくることが恒例となっていますが、カエルや大根の伝承は亥の子とは結びついていません。つまりこのようなことから考えると、田の神節供のカエル、大根の伝承は、亥の子から移ってきた伝承のように考えられるわけです。

なお、田の神節供の節供といいのは、一般的には節句と書かれますが、民俗学からいえば節供が正しい書き方です。（学芸員 小川直之）